

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
自己表現とコミュニケーション分析 (Advance)		選択	2	1.2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
高田 毅	B301	t.takada	火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>自己表現は、青年期の発達課題の1つである。大学生活はもちろんのこと、就職活動やその後の人生を生き抜く力に直結する。本演習では、コミュニケーション分析を通して自分のコミュニケーションの特徴を理解し、率直な自己表現能力の向上を目的とする。</p> <p><概要>Basicの授業で培われた構成力を基礎として、対話におけるコミュニケーションを中心に体験的に自己表現の技術を学び、体験を重ねる。人間コミュニケーション学科のディプロマポリシーにある「豊かな人間観」と「多様性を尊重する姿勢」を育むため、多角的な視野を培い、異なる背景や視点を尊重できる、多様な自己表現・コミュニケーションの実践を体験する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> その他 (<input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク)				
学習上の助言	ワーク中心の授業である。それぞれの体験を確認しながら進める。楽しむことが重要である。講義中の質問・疑問・関心・感想はその都度発言し、授業内で消化することが重要である。体験は人それぞれなので、自分の固有の体験に正直になり、学びにすることが重要である。				
教科書	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	なし				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	自分を表現するための技術を理解し、コミュニケーションに活用できる。			HSU(4)、HC(6)	
②	自己理解をし、自分の長所と課題を自覚することができる。			HSU(5)、HC(4)	
③					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーションを行う。ワークの心構えを学ぶ。	講義・演習	受講の意志を明瞭にする。授業後にコメントシートを提出する。	2	
2	自己世界を安全に広げる体験から学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
3	自分を覚醒する体験から学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
4	主語の意識による体験の変化から学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
5	まとめ①：自分を十分に使う体験をまとめる。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
6	情報とエネルギーの違いから学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
7	表現と防衛の違いから学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
8	「今、ここで」の体験から学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
9	認知・感情・行動のバランスから学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
10	まとめ②：自己理解、他者理解のポイントをまとめる。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
11	集団のサイズによるコミュニケーションの違いについて学ぶ①。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
12	集団のサイズによるコミュニケーションの違いについて学ぶ②。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
13	集団の中でのコミュニケーションの応用について学ぶ。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
14	まとめ③：1対1と集団状況との違いからみえるコミュニケーションの特徴をまとめる。	講義・演習	事前にレジメを読み、授業後にコメントシートを提出する。	4	
15	まとめとフィードバックを行う。	講義・演習	全体の学びをまとめる。授業後にコメントシートを提出する。	6	
試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	55	0	0	45	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	5	15
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	5	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	5	15
	コミュニケーション力	0	10	0	0	5	15
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	15	15
	問題を発見・解決する力	0	15	0	0	10	25
評価方法		評価のポイント				フィードバックの方法	
行動目標		評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	知識を用いて思考、表現ができているかどうか、学生固有の体験から学ぶことができているかを評価する。また、具体的に丁寧に書かれているかどうかを評価する。			レポートを返却し、解説とフィードバックを行う。	
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回の授業後にコメントシートを記入する。具体的に丁寧に書かれているか、自分の体験と繋いで理解できているかを評価する。 (2点×15回=30点)			コメントシートに教員がコメントを加えて返却する。 必要に応じて次回の授業で補足する。	
	②	✓					
	③		授業内でのワーク等の取り組み姿勢を評価する。 (1点×15回=15点)				
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	臨床心理士として17年、公認心理師として6年の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	ミニワークを中心とした体験学習を中心に展開する。心理療法やグループセラピーの技術を応用して、各自の体験からのスキルの取得や自己理解を促す。						
そ の 他	<p>生成 AI (ChatGPT 等) を使用した課題作成は認めない。発見した場合は、評価を減じる。 「自己表現とコミュニケーション (Basic)」を単位取得済みであることが望ましい。</p> <p>授業に参加し、自ら学ぶことが求められる。その点を理解の上受講すること。</p> <p>大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。 尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p>						